

ポーランド政治・経済・社会情勢

(2012年11月1日～11月7日)

平成 24 年 (2012 年) 11 月 9 日

H E A D L I N E S									
<p>政治</p> <p>カチョロフスキ元ロンドン亡命政府大統領の遺体の再埋葬 野党「法と正義」が EU 次期多年度予算に拒否権発動を可能とする法案を提出すると発表 墜落した政府専用機から爆発物成分が発見されたとの記事を記載した記者らが解雇される トウスク首相のシンガポール訪問 コモロフスキ大統領とヤヌコヴィチ・ウクライナ大統領との電話会談 トウスク首相のASEM出席 日・ポーランド首脳会談 大統領によるオバマ米大統領への祝電 上院国防委員会におけるミサイル防衛に関する議論</p>									
<p>経済</p> <p>自動車関連産業が低迷 倒産件数の増加傾向が続く 消費の減速が鮮明になる PAIiIZが中国企業の発電所建設投資を支援 ポーランド食品は中国市場では苦戦 ポーランド政府、鉄道投資を拡大 ABB社がウッジに3千万ドルの工場建設を開始 中国輸出入銀行が中東欧向けファンドの本部設置国を検討すべく中東欧3カ国を訪問 PGNiG社とガスプロム社がガス価格の引き下げに合意 ポーランド産農産品輸出額が過去最高となる見込み 大手旅行会社 TUI ポーランドの売り上げが増加 金融政策委員会、利下げに踏み切る 欧州委、ポーランドの経済成長率を下方修正 BASF社がポーランドで大規模工場を建設予定 SEZ 制度延長の可否がGM社グリヴィツェ工場での「オペル・アストラ5」生産に影響</p>									
<p>大使館からのお知らせ</p> <p>トルンにおける領事出張サービスについて ハーグ条約(国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約)について 東日本大震災義捐金受付について 文化行事・大使館関連行事</p>									
<p>在ポーランド日本国大使館 ul.Szwolczerow 8, 00-464 Warszawa Tel:+48 22 696 5000 http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm</p>									

【お願い】3か月以上滞在される場合、「在留届」を大使館に提出してください。大規模な事故・災害等が発生した場合、所在確認・救援の根拠となります！
 問合せ先:大使館領事部 電話 22 696 5005 Fax 5006 各種証明書、在外投票、旅券、戸籍、国籍関係の届出についてもどうぞ。

政	治
内	政

カチヨロフスキ元ロンドン亡命政府大統領の遺体の再埋葬【1日】

DNA 検査の結果、スモレンスクでの政府専用機墜落事故で死亡したカチヨロフスキ元ロンドン亡命政府大統領の遺体が誤って埋葬されていたことが判明した件で、1日、同遺体はワルシャワ市ポボンスキ国立墓地に再埋葬された。

野党「法と正義」が EU 次期多年度予算に拒否権発動を可能とする法案を提出すると発表【5日】

5日、野党「法と正義」は2014年から2020年のEU次期多年度予算がポーランドが最低限求める結束

基金3000億ズロチを満たさなければ同予算に対して拒否権を発動する法案を下院に提出すると発表。

墜落した政府専用機から爆発物成分が発見されたとの記事を記載した記者らが解雇される【5日】

10月30日付ジェチポスポリタ紙で2010年に墜落した政府専用機の残骸から爆発物成分が発見されたと報じた記事に関し、同紙は5日、記事の信憑性が疑わしいとして、執筆した記者の他、ブルブレフスキ同紙編集長、副編集長、内政部長らを解雇したと発表。本件に対し、カチンスキPiS党首は、言論の自由の侵害であると激しく非難。

外	交
---	---

トウスク首相のシンガポール訪問【4日】

4日、トウスク首相は、シンガポールを訪問し、トニー・タン大統領、リー・シェンロン首相と会談。トウスク首相は、シンガポール側にポーランド国債の購入及び民営化への参画を通じてポーランドに投資するよう招請。

ついて協議した。トウスク首相より、日本の対ポーランド投資が減少傾向にあるとの指摘がなされ、両首相は、ハイレベルの要人往来を含めて必要な措置を取ることで合意。また、野田総理は、日本がクリーン・コール技術等のエネルギー分野における対ポーランド投資に関心があると述べた。

コモロフスキ大統領とヤヌコヴィチ・ウクライナ大統領との電話会談【4、6日】

4日、コモロフスキ大統領はヤヌコヴィチ・ウクライナ大統領と電話で会談し、10月28日に実施された最高議会選挙結果が未だに公表されていないことへの懸念を表明。6日、両大統領は電話で再度会談。

オバマ大統領再選への祝電【7日】

7日、コモロフスキ大統領、トウスク首相及びコパチ下院議長は、オバマ大統領の再選を受けて祝電を发出。

トウスク首相のASEM出席【5～6日】

5～6日、トウスク首相はラオスで開催されたASEM9に出席。また、ASEM出席に先立ち、タイ、日本、中国及び韓国首相と会談。

上院国防委員会におけるミサイル防衛に関する議論【7日】

7日、上院国防委員会に於いてミサイル防衛システム整備に関する議論がなされ、ムロチェク国防副大臣は「ミサイル防衛システムの整備はできる限り早期に完成させるべき優先課題。国防予算のGDP1.95%規定が十分な助けになる。」と説明。財務省は2014年から2023年の間における同計画に割り当て可能な予算を100～140億ズロチと試算。

日・ポーランド首脳会談【5日】

5日、両首相は、日EU・EPA、ポーランド農産品の対日輸出等、両国の政治・経済協力の可能性に

経	済
---	---

自動車関連産業が低迷【5日】

2012年にポーランドで生産される生産される自動車は65万台で、2008年の2/3となる見込み。フィアットがパンダの生産をティヒからナポリに移管する等2013年には生産台数はさらに減少すると予想されており、ポーランド国内での生産縮小が生じている。本年、チェコはポーランドの2倍近い100万台超を生産し、スロヴァキアもポーランドを追い抜くと予想されている。2009年に西ヨーロッパ諸国が補助金等を投入

して自動車産業を支えたのに対し、ポーランド政府は将来の国内需要減を見越して税制支援を行わなかった経緯もあり、自動車関連産業の問題に無関心のようにも見受けられる。

倒産件数の増加傾向が続く【5日】

1月～10月の倒産件数は、前年同期の627件を上回る774件となった。10月は93社が破産宣告をしており、前年同月比で66%増に達し、5,500の雇用

が失われた。このうち 33 社は建設業で 2003 年以來最も多い件数となっている。

消費の減速が鮮明になる【5日】

個人消費は過去数年ポーランド経済を支える原動力となっており、2009 年も比較的規模の大きい国内市場の利点を活かして金融危機の影響からマイナス成長となることを辛うじて回避したが、第 3 四半期の消費は前年同期比 0.9%増と予想されており、2003 年第 1 四半期以来の低水準となる見込み。労働市場が低迷していることを受け、将来の所得減少を危惧して買控えが起こっているとの見方が強い。

PAIIZが中国企業の発電所建設投資を支援【5日】

中国企業はポーランドの発電所建設に係る入札に参加しているが、これまでのところ受注には至っていない。中国企業は競争相手に対する価格引下げ圧力となるために入札に招かれているのではないかとの意見もある。更に、入札の仕様書は複雑な公共調達法に基づいて起草されており、入札手続きで間違いを犯しやすい。ポーランド情報・外国投資庁(PAIIZ)のマイマン総裁は、公共調達法に基づく入札に参加するのではなく、ポーランド企業とのジョイント・ベンチャー設立により発電所を建設する方法を模索することを提案している。

ポーランド食品は中国市場では苦戦【6日】

中国は、アジアではポーランドの最大貿易相手国となった。食品製造会社は、誇らしげに中国企業との契約を行ったが、専門家によると、食品市場での結果は芳しいものではない。ポーランドのEU加盟から2011年末までの中国への輸出は、4億5千万ユーロから3倍の14億ユーロに増加した。ポーランドからの主な輸出品は、銅、機械、化学製品であり、食品は輸出リストのまさに最後の最後である。ポーランド食品連盟のアンジェイ・ガントナー総務部長は、農業省と外務省間で協力を強化していく必要性があり、中国食品市場をモニターし、事業者向けの報告書を準備するような貿易担当部門を創設する必要があると述べている。

ポーランド政府、鉄道投資を拡大【6日】

ノヴァク運輸相は、2012 年にポーランド国鉄(PKP PLK)は、燃料税による歳入から投資目的で 200 億ズロチを受け取っており、2013 年は 260 億ズロチに増額されると発表した。ポーランド鉄道網の整備は、EU 加盟国からの要請のみならず歴史的な経緯からも再活性化が期待されているとし、2014 年-2020 年次期多年度予算におけるEU基金の支援も念頭に置いていると述べた。欧州委は、鉄道投資のための新基金「Connecting Europe」の設立も提案しており、鉄道投資の拡大に注目が集まっている。

ABB社がウッジに3千万ドルの工場建設を開始【6日】

ABB社が、3千万ドルを投資して、電力変圧器や配電変圧器の部品製造工場の建設をウッジで開始する。来年年末には建設は完了する予定で、140人の雇用を創出する。今回の投資は、電子機器製造工場、電機エンジン製造工場に次ぐABB社による同市3度目の投資となり、計約1,000人を同市で雇用することになる。

中国輸出入銀行が中東欧向けファンドの本部設置国を検討すべく中東欧3カ国を訪問【6日】

ジエコンスキ大統領府副長官は、中東欧向け投資のためのキャピタル・ファンド創設に係るパートナー探しのために訪欧中の中国輸出入銀行(EXIM Bank of China)代表団と会談した。同代表団は、ポーランド以外にハンガリーとセルビアを訪問する。同ファンドの目標資産は5億ドルに設定されており、来年初頭から運用を開始、第1段階として1億5千万から2億ドルが投資される。ファンドの本部の設置場所は11月末までに決定される。

PGNiG社とガスプロム社がガス価格の引き下げに合意【6日】

ガスプロム社がPGNiG社へのガス供給価格を10%以上引き下げることにより両者間で合意した。新価格は2011年4月に遡って適用され、過去の差額分はPGNiG社に払い戻されることになる。ポーランド国内でのガス価格も2013年1月1日から引き下げられる見込み。なお、当該合意はPGNiG社によるガスプロム社に対する国際仲裁裁判所への申し立ての取り下げが条件となっているが、PGNiG社は既に国際仲裁裁判所に申し立ての取り下げを申請したとしている。また、今回の合意は、ポーランドの他のプロジェクトでの今後の両社間の協力の可能性を開くものとドウジンスキPGNiG社副社長は述べている。

ポーランド産農産品輸出額が過去最高となる見込み【7日】

2012年のポーランド農産品輸出額は160億ユーロを越す予想で、専門家は、2012年は過去最高の輸出額を記録するだろうと述べている。今年の輸出増加の理由は、2012年上半期のユーロに対するズロチ安が進んだことにある。国際的に食品価格が増加するなかで、ポーランド産農産品は、比較的安価であり経済危機が進んでいる中、国外での購入が進んだ。ポーランド産農産品の輸出の75%はEU向けである。しかしながら、肉類では、ロシア、トルコ、中国、韓国、ジュース類ではアラブ諸国、米国、カナダでの輸出が進んでおり、ポーランドの食品製造会社は、EU域外の市場にも目を向けつつある。

大手旅行会社 TUI ポーランドの売上げが増加【7日】

大手旅行会社の TUI ポーランドの売上げは、今年6億ズロチに到達すると予想される。4年前はわずか、2億5千万ズロチであった。ドイツのツアーオペレーターのポーランド支社は、顧客数が前年比で40%増の20万人に達するものとみている。同社幹部は、「今年の旅行市場は15%の拡大をみせたが、同社の販売収益の増加はそれを上回っている」述べている。

金融政策委員会、利下げに踏み切る【7日】

金融政策委員会は、ポーランド中央銀行の政策金利を現行の4.75%から0.25%ポイント引下げ4.5%とすることを発表した。同様に、ロンバード・レート(有価証券担保型貸付金利)は6.0%、デポジット・レート(預金金利)は3.0%、リディスカウント・レート(再割引利率)は4.75%へとそれぞれ利下げされた。予想以上の速度で経済成長が減速し、労働市場も悪化していると同時に、インフレ懸念が後退していることを受け利下げに踏み切ったもの。ベルカ総裁は、「今回の決定は金融政策緩和の始まりにすぎず、長期的な経済後退が確実となりインフレ圧力が制限されるのであれば、更なる利下げもあり得る。」と述べている。

欧州委、ポーランドの経済成長率を下方修正【7日】

欧州委は11月の経済予測で、ポーランドの2012年のDGP成長率を2.4%、2013年は1.8%と下方修正した。5月の予測では2012年は2.7%、2013年は2.6%であった。一般政府財政赤字についても、2012年は対GDP比3.4%、2013年は同3.1%で、3%以下

下にはならないとしている。他方、バルト三国における2013年の経済成長率はエストニア3.1%、ラトビア3.6%、リトアニア3.1%と高い予想が出ている。

BASF社がポーランドで大規模工場を建設予定【7日】

2012年末までに、BASF社が新たに自動車触媒コンバーター工場をポーランドに建設する。新工場はレグニツァ経済特別区に建設され、400人以上の雇用を創出する。同様の工場としては欧州最大規模で、2014年第1四半期に生産が開始される。最初の段階では9千万ユーロが投資され、2016年までに合計10の製造ラインが稼働し、投資金額も1億5千万ユーロに達する。BASF社は、欧州の排出ガス規制の継続的な強化が新システムに対する需要を刺激していると指摘している。

SEZ 制度延長の可否がGM社グリヴィツェ工場での「オペル・アストラ5」生産に影響【7日】

GM社は、カトヴィツェ経済特別区から新規投資を開始するための許可証を取得した。グリヴィツェ工場では「オペル・アストラ5」モデルの生産が2015年から開始されることが予定されている。GM社は3億ズロチ近くを投資し、2,700名の雇用を維持するとしている。本プロジェクトは、2012年には生産台数が17.2万台から13万台に落ち込むグリヴィツェ工場にとって極めて重要なものとなっている。一方、経済特別区制度の存続期限は現在2020年となっており、その後の継続は経済省と財務省の合意次第となっている。新アストラ・モデルの生産場所の決定も、経済特別区制度の延長の影響を受けるとされている。

大使館からのお知らせ

トルンにおける領事出張サービスについて

大使館は、11月17日(土)10時から13時までの間、Hotel Mercure Helios (ul. Kraszewskiego 1/3 Torun)において、領事出張サービスを実施します。詳しくは、下記HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/konsulat/j_20120913.html

ハーグ条約(国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約)について

当館HP上に、「ハーグ条約(国際的な子の奪取の民事上の側面に関する条約)に関する情報を掲載いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

http://www.pl.emb-japan.go.jp/konsulat/documents/haga_pamphlet.pdf

東日本大震災義捐金受付について

当館における東日本大震災義捐金受付は、平成25年3月31日(日)までに延長いたしました。詳しくは下記HPをご覧ください。

<http://www.pl.emb-japan.go.jp/jishin/gienkin.j.htm>

文化行事・大使館関連行事

【予定】「松本梅しょう-日本の心を奏でる」日本伝統音楽の演奏会【11月12日(月)】

当館広報文化センターにて、民謡の専門家、秋田三味線・津軽三味線奏者、松本梅しょう氏による演奏会が開催されます。入場料は無料です。座席に限りがありますので、参加ご希望の方は事前にご連絡ください。

開催場所：在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話：22 584 73 00, Eメール：info-cul@emb-japan.pl、住所：Al. Ujazdowskie 51, Warszawa)

【予定】第32回日本文化デー【11月14日(水)～30日(金)】

ウッジにて、梅田良忠教授記念ポーランド日本語教育文化センター主催による、第32回日本文化デーが開催されます。日本に関する講演、日本映画上映、日本人形展等、日本文化を紹介する様々なイベントが予定されています。

問合せ先：梅田良忠教授記念ポーランド日本語教育文化センター(住所：Plac Wolności 14, Łódź, Eメール：bunka1@home.pl、ホームページ：<http://bunka.org.pl/>)

開催場所：ウッジ考古学・人類学博物館(住所：Plac Wolności 14, Łódź, 電話：42 632 84 40、ホームページ：<http://www.maie.lodz.pl/>)

【予定】将棋&動物将棋ワークショップ【11月15日(木)】及び第1回ポーランド将棋選手権大会【11月17日(土)～18日(日)】

当館広報文化センターにて、将棋ワークショップ及び第1回ポーランド将棋選手権大会が開催されます。動物将棋(お子様向けの将棋)を開発された北尾まどか女流プロ棋士も参加されます。同イベントには将棋に関心をもっている方はどなたでも参加することができます。詳細については、当館のホームページ(http://www.pl.emb-japan.go.jp/kultura/j_shogi_2012.html)をご覧ください。

問合せ先：神尾(Eメール：n.kamio@emb-japan.pl)

開催場所：在ポーランド日本大使館広報文化センター(電話：22 584 73 00, Eメール：info-cul@emb-japan.pl、住所：Al. Ujazdowskie 51, Warszawa)

【予定】剣技衆かむみポーランドツアー2012【11月16日(金)～21日(水)】

ワルシャワとウッジにて、東洋文化・スポーツセンター「ソト」主催による、剣技衆「かむみ」及び歌手小林未郁氏の公演が開催されます。剣技衆「かむみ」は、高度な剣の技と既成の枠にとられない表現方法で、形式美と武術と芝居を融合したパフォーマンスを行います。ワークショップも予定されています。詳細はこちら：

<http://soto.waw.pl/kamui>

問合せ先：東洋文化・スポーツセンター「ソト」(住所：Karolkowa 28, Warszawa, 電話：22 299 01 30, Eメール：soto@soto.waw.pl、ホームページ：<http://soto.waw.pl>)

【予定】ATOKATA 篠山記信氏の写真展【11月21日(水)～1月20日(日)】

カトヴィツェにて、現代美術ギャラリーBWA 主催による、篠山記信氏による東日本大震災の写真の展会「ATOKATA」が開催されます。詳細はこちら：

http://www.bwa.katowice.pl/p/306/kishin_shinoyama_atokatalady_wystawa_fotografii/

問合せ先・開催場所：現代美術ギャラリーBWA(住所：Wojciecha Korfańskiego 6, Katowice, 電話：32 259 90 40、ホームページ：<http://www.bwa.katowice.pl/>)

【予定】「日本へもっと近く」日本文化イベント【11月25日(日)】

ザブジエにて、学生クラブ「アイキドウ」主催による、日本文化イベント「日本へもっと近く」が開催されます。合気道デモンストレーション、折り紙ワークショップ等、日本文化を紹介する様々なイベントが予定されています。

問合せ先：学生クラブ「アイキドウ」(Eメール：aikido.ruda@gmail.com)

開催場所：ザブジエ市スポーツセンター(住所：Matejki 6, Zabrze, 電話：32 271 66 40、ホームページ：<http://www.mosir.zabrze.pl/>)

【予定】「忠臣蔵。47人の浪人」浮世絵展示【11月30日(金)～4月20日(土)】

クラクフ日本美術技術博物館「マンガ」にて、浮世絵展示「忠臣蔵。47人の浪人」が開催されます。

問合せ先・開催場所:「マンガ」日本美術技術博物館(住所:ul. Konopnickiej 26, Krakow, 電話:12 267 37 53, Eメール: muzeum@manggha.krakow.pl, ホームページ: <http://www.manggha.krakow.pl/>)

この資料は、ポーランドの政治・社会情勢を中心に、各種報道をとりまとめたものです。報道をベースにしておりますので、記載事項の信頼性については責任を負いかねます。記載事項は在ポーランド日本国大使館の見解を示すものではなく、特定の団体・個人の利益を代表するものではありません。

皆様からの情報提供をお待ちしています

大使館では、読者の皆様に幅広くポーランドの情報をお伝えするため、皆様からの情報をお待ちしています。社会・生活情報やおすすめのイベント、困ったことなど、皆様に伝えたいと思われる情報があれば、下記のアドレスまでご連絡ください。(営利目的など、内容によっては対応できかねる場合もありますのでご了承ください。)

【お問い合わせ・配信登録】

本資料は、ポーランドに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。「新たに配信を受けたい」、「送付先メールアドレスを変更したい」、「配信を停止したい」等の依頼につきましては、下記のアドレスまでご連絡ください。

大使館ウェブサイト(http://www.pl.emb-japan.go.jp/index_j.htm)も併せて御覧ください。

在ポーランド日本国大使館 newsmail@emb-japan.pl
(ご連絡は電子メールでお願いします。)